議員が行う「質問」とは?

「議員」といえば、議場で演壇に立ってさまざまなことを質問している姿をイメージする方も多いのではないでしょうか。実はその「質問」は2種類あります。

一つは「一般質問」です。これは、全ての三重県議会議員が（原則）1年に1回、60分間の持ち時間の中で、県政に関することを知事や県当局に問うことができるものです。

もう一つは「代表質問」です。これは、議員のグループ（「会派」と言います）のうち、5人以上が所属する会派の代表者が県政に対して行う質問です。通常は、2月と9月の定例月会議で行われますが、県議会議員選挙の後や知事選挙の後にも行われます。代表質問は持ち時間が70分と少し長くなります。

質問のスタイルは議員によって千差万別です。調査をした内容をしっかり原稿に落とし込んで臨む議員もいれば、数値や大事なキーワードだけメモしておき、その場で自由に話す議員もいます。

代表質問・一般質問はインターネット中継・録画配信のほか、テレビ中継も行っています。議員の個性が表れる「代表質問」、「一般質問」を是非チェックしてください。

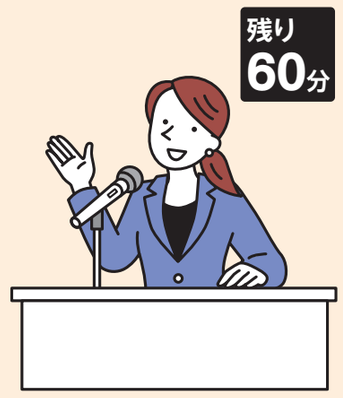
議員が質問を行う流れ

要望や困りごとの聞き取り

県民の皆さんが県に求めていることや、困っていることについて聞き取り、知事や県当局に質問する内容を考えます。

情報収集・原稿作成

県の担当部署に詳細な現状の聞き取りをしたり、現地への調査を行ったりするほか、先進的な事例についても知見を深め、質問の原稿を作成していきます。



質問　当日

県民の皆さんの現状や切実な思い、調査の結果や先進事例との比較などを盛り込みながら、持ち時間で質問を行います。持ち時間には知事や県当局からの答弁の時間も含まれます。

報告

知事や県当局からの答弁など、県民の皆さんからの要望や困りごとがその後どのようになったかを、県民の皆さんに報告します。議会の広報紙「みえ県議会だより」でお知らせするほか、多くの議員が報告会を開催したり、チラシやSNS等でも発信したりしています。

三重県議会の議員はどんなことを質問しているの?

一般質問で、議員は具体的にどのような内容を質問しているのでしょうか?令和6年定例会（令和6年1月～12月）で実際に行われた一般質問をデータ化し、分析してみたところ、さまざまな分野に対する質問が行われていることや、災害など、その時々で、世間や社会で問題・話題になっている事柄を取りあげていることが分かりました。

〇測定方法

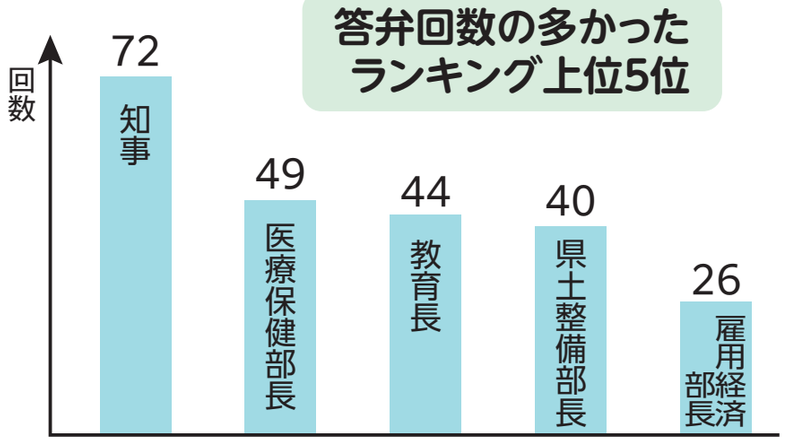
ワードクラウド…令和6年定例会の一般質問で「発言通告」された内容のうち実際に質問と答弁がされた大項目について、出現頻度順で処理。頻出の単語ほど大きく表示される。さらに、単語の出現文脈から6つの行政部門別常任委員会ごとに議会事務局で色分けを行った。

答弁回数…令和6年定例会の一般質問のうち、実際に答弁された回数を会議録から拾い上げて積算し、グラフ化した。

ワードクラウド

※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析（ https://textmining.userlocal.jp/ ）

答弁回数の多かったランキング上位5位



〇分析結果

まず、質問内容のタイトルでの頻出単語を表したワードクラウドでは、令和6年1月1日に発生した能登半島地震の影響で、「地震」や「防災」、「災害」、という言葉が頻出していたことが分かります。また、河川に関する質問もあり、具体的な川の名前も挙がっています。「複数分野」の単語では「推進・対策・支援・対応・確保」などが大きくなっています。議員がさまざまな分野で県当局に対して「こういったことを進めてほしい」という要望を行っているということが見える結果となりました。

次に、答弁の回数では、全部で419回の答弁が行われたうち、最多の72回・17%を知事が担当していました。次いで49回答弁している医療保健部長は、回数だけで考えれば三重県議会議員の全員（定数48）から1回ずつ質問をされたのと同じ状況です。また、4位の県土整備部長に関しては、同様に県土整備部の担当をしている「県土整備部理事」と合わせると県土整備部関連の答弁数は62回・15%となり、知事に次ぐ答弁の多さになります。つまり、県土整備部は道路や河川のことなどを担当する部門として、議員の答弁に多く答えており、ワードクラウドの結果とも一致する結果となりました。